

～2013年の主要国の株式・通貨騰落率から考えてみよう～

先進国と新興国の“デ・カップリング”

2013年の主要国の株式・通貨騰落率をみると、新興国が概ねマイナスだったのに対し、先進国は概ねプラスのパフォーマンスとなりました(デ・カップリング)。

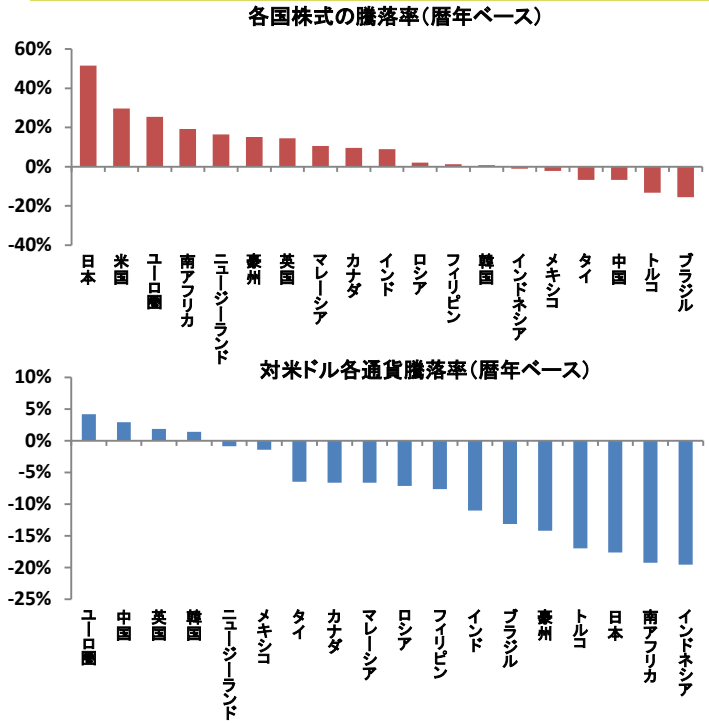
新興国間の“デ・カップリング”

また、新興国の中でも個々の国によって異なる動きとなりました(デ・カップリング)。その要因は、新興国には安定成長に入った国、発展途上の国など国によって成長ステージの違いがあることや、資源を有する国、労働人口の多い国など成長の原動力も異なることなどが考えられます。

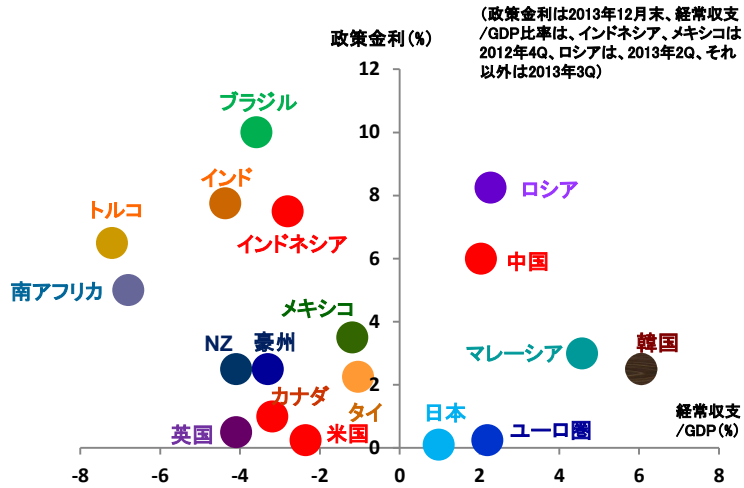
2014年の新興国の動向

2014年の新興国市場については、各国の選挙と金融政策等に注目したいところです。選挙については、インドは4～5月に総選挙、インドネシアは4月に総選挙、7月に大統領選挙、トルコは6～8月に大統領選挙、南アフリカは4～6月に総選挙、ブラジルは10月に大統領選挙が予定されています。

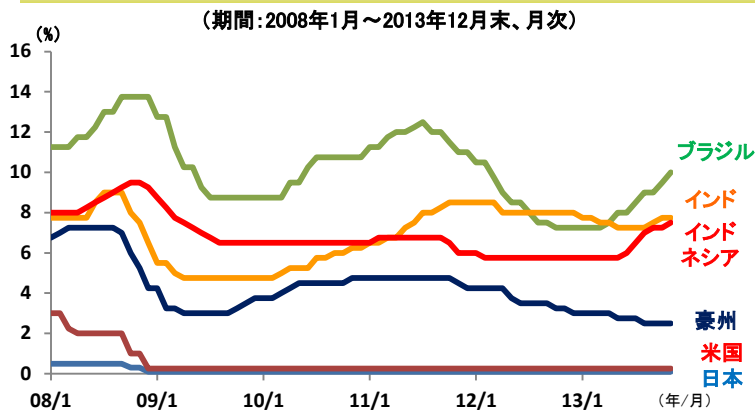
【図表①:2013年、主要国の株式・通貨の騰落率】



【図表②:主要国の経常収支/GDP比率と政策金利】



【図表③:主要国の政策金利の推移】



当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。